



デジョユ・プール ユーザーマニュアル



INDEX

- I フィルタレーションシステム（ろ過装置）の使い方
- II 水質の維持
- III プールのメンテナンス
- IV 台風など大雨が予想される場合
- V 水が濁ってしまった場合
- VI プールを長期間使用しない場合

I フィルトレーションシステム（ろ過装置）の使い方

フィルトレーションシステムはプールの水を美しく保つための重要な装置です。
下記の説明を読んで正しくお使いください。



注意

プールに水を張っていないときは、絶対に運転しないでください。

▶最適な水位

1. 定期的に水位をチェックしてください。

最適な水位はスキマー（吸水口）の上部 4 分の 3 程度のところです。水位が足りないとろ過が適正に行われない、ポンプが損傷するなど、不具合の原因となります。
（給水には水道水をご使用ください。）

2. 水の循環効率を上げるため、ディスチャージ・ノズルをやや上向きに設置し、水面の水がよく混ざるようにしてください。



▶コントロールパネル（電気制御盤）

フィルトレーションシステムはコントロールパネルで制御を行います。

湿気の多い屋外に設置するケースも多くみられますので、こうした場合には使用後に必ず保護蓋を閉めるように気をつけてください。

開けっ放しにすると湿気により正常に機能なくなる危険があります。

＜各部の名称＞ ※ 製品の納入時期によって、操作方法が若干異なります。



- ① 電源スイッチ
上：マニュアル（フル稼働）
中：OFF
下：オートマチック
（タイマーセット稼働）
- ② ブレーカー（漏電遮断器）
- ③ ライトブレーカー
- ④ ポンプブレーカー
- ⑤ タイマー
- ⑥ 照明スイッチ
上：ON 下：OFF

▶ろ過処理時間の設定

コントロールパネルにあるタイマーでろ過機の稼働時間を設定します。



目盛りを回して、矢印に現在時刻を合わせます。

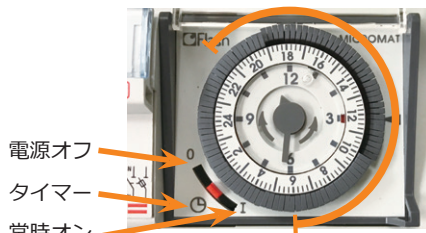
目盛り外側の灰色のツメを押し広げた範囲で自動運転します（15 分間隔で設定可能）。

1. 2 ～ 24 の目盛りを回して、矢印の部分に現在の時刻を合わせます。
2. 目盛り外側の灰色のツメを、稼働させたい時間のすべての範囲で押し広げます。
例えば、6 時～ 21 時まで稼働させたい場合は、6 ～ 21 の間のツメをすべて押し広げます（下図参照）。

＜推奨稼働時間＞ ※ 昼間は重点的に稼働させてください。

夏：12 ～ 15 時間運転

春・秋：8 ～ 9 時間運転



例) 現在の時刻 12 時
6 時～ 21 時まで連続運転



例) 現在の時刻 12 時
10 時～ 19 時まで連続運転

プールの使用頻度や設置場所により、稼働時間を調整してください。

使用頻度の高い真夏のトップシーズンは 15 時間以上の運転をおすすめします。

必要なる過時間は気温によって異なります。

基本的には「ろ過時間（時間）＝気温（℃）÷ 2」

例) 気温 24℃ → $24 \div 2 = 12$ 時間のろ過が必要

※ 設定前に時計が正常に機能しているか、ブレーカーを落とした後などは特に気をつけて時刻の確認をしてください。

※ 冬期、気温より水温が高くなった場合には、水温 ÷ 2 のろ過時間で運転してください。

▶ろ過処理時間の設定 GLASSLIN（ツメが赤いもの）

コントロールパネルにあるタイマーでろ過機の稼働時間を設定します。

※タイマーのオン/オフで自動的に作動するため、
操作しないこと。

- 0 電源オフ
- 🕒 タイマー
- 1 常時オン



現在時刻設定用つまみ

※時計回りに操作

短針 = 時針

長針 = 分針

【例】現在時刻 午前 10:10

13:00 ~ 13:30
30 分間ろ過機稼働



22:00 ~ 23:00
1 時間ろ過機稼働

- 中央のつまみを時計回りに回して、現在の時刻を合わせます。
グレーの短い矢印が時針、長針が分針です。つまみを回すと、時計の針と連動して 24 時間表示の目盛りが回転します（写真は午前 10:10）。
- 24 時間表示の目盛りを確認しながら、ろ過機を稼働させたい時間に合わせ、外側の赤色のツメを内側に押し込みます。
ツメを押し込んだ範囲で自動運転します（15 分間隔で設定可能）。

＜推奨稼働時間＞ 夏：12 ~ 15 時間運転 春・秋：8 ~ 9 時間運転
※ 昼間は重点的に稼働させてください。

プールの使用頻度や設置場所により、稼働時間を調整してください。
使用頻度の高い真夏のトップシーズンは 15 時間以上の運転をおすすめします。

必要なろ過時間は気温によって異なります。

基本的には「ろ過時間（時間）= 水温（℃）÷ 2」

例）水温 24℃ → 24 ÷ 2 = 12 時間のろ過が必要

- ※ 設定前に時計が正常に機能しているか、ブレーカーを落とした後などは特に気をつけて時刻の確認をしてください。
- ※ 夏季、水温より気温が高くなった場合は気温 ÷ 2 のろ過時間で運転してください。

▶フィルタレーションは適正使用が経済的

ろ過機は効率よく不純物を取り除き、藻の発生を抑えますので、ある程度ろ過機を稼働させ水を循環させる方が経済的です。

また、夜間だけろ過機を稼働させるといった節約はしないでください。

藻類は光合成によって、昼間に繁殖しますので、日中のろ過が不可欠です。

▶ブレーカー（漏電遮断器）



デジユのコントロールパネルにはブレーカー（漏電遮断器）がついています。何か異常を感知すると、ブレーカーが落ちてシステムに電力が流れないように作動します。

異常が解かれれば、スイッチは通電できるようになります。

テストボタンを押し、ブレーカーが落ちるかの確認を毎月行ってください。

カチッと音がしてブレーカーが落ちれば問題ありません。その後ブレーカーを上げてください。

この作業はブレーカーに電力が流れているときに行ってください。

カチッと音がしないなど、正常作動確認が取れないときは何らかの不具合が生じていますので、すぐに電源を切り販売店もしくは電気技師へご連絡ください。

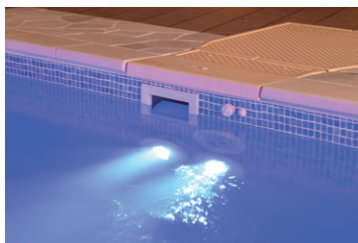
▶ポンプ室の確認



月に 1 回は、ポンプ室の中に水が溜まっていないか確認してください。
溜まっているときはスポンジや灯油ポンプ等で水を排出してください。
頻繁に水が溜まる場合は販売店にご連絡ください。

- ・ろ過機のフタはしっかりと閉めてください。水の侵入の原因となります。

▶スポットライト



ライトのスイッチはスポットライト全体が水面下にあるとき以外は絶対に ON にしないでください。

ライト本体、部品が焼損します。

II 水質の維持



注意

- ・ プールに直接塩素剤を投入することは絶対に避けてください。
塩素がライナーに直接触れると色抜けします。
- ・ 薬剤は子どもの手の届かない場所で、かつ直射日光を避け、風通しがよいか換気状態のよい場所に保管してください。
- ・ 同一の容器に異なる種類の薬剤を入れて保管しないでください。
- ・ 薬剤の使用に関しては、必ずそれぞれのパッケージに記載された使用上の注意をよく読み、使用方法を守ってください。
- ・ 複数種の薬剤を一緒にプールに投入しないでください。
- ・ pH 調整剤、ショック塩素を入れたときは、投入後 2 時間はプールに入らないようにしてください。
- ・ 水質のチェックは 1 日の終わりに行うのがよいでしょう。
- ・ **薬剤はデジユ純正品をご使用ください。純正品以外によるトラブルは全て保証対象外となります。**

▶ pH 値

pH 理想値は 7.2 ～ 7.4 とされています。

水質チェックをする際は、常に pH 値のチェックから始めてください（H₂O 検査キット使用）。

pH レベルによって必要な処理が変わってきますので、このチェックは必ず行ってください。

pH 値は酸性からアルカリ性が 0 ～ 14 段階で表されます。

中央値 pH7 が中性、それ未満が酸性、それより大きければアルカリ性です。



H₂O 検査キット



1. 検査キットにプールの水を適量取り、薬剤を投入します。
2. しばらくして水の色が変わったら、pH 値を確認します。
(写真は塩素濃度を確認しているものですが、pH 値と塩素濃度のチェック方法は同じです)

<検査用錠剤> ※ 薬剤のパッケージは、納入時期によって異なる場合があります。



使用する薬剤
塩素濃度：DPD
pH 値：Phenol Red

▶ pH が理想値を外れた場合の処置

pH の数値によって薬剤「pH+」または「pH-」を使用します。
pH 値を 0.1 変えるためには、「pH+」「pH-」のいずれの場合でもプールの水 20 m³あたり 200g が必要です。

例えば、20 m³（6 × 3m 程度）のプールにおいて、当初測定値が 6.8 で 7.2 まで上げる場合は、差は 0.4 ですので

$200\text{g} \times 4 = 800\text{g}$ の「pH+」が必要になります。

逆に当初測定値が 7.8 でそれを 7.2 まで下げる場合、差は 0.6 ですから

$200\text{g} \times 6 = 1.2\text{kg}$ の「pH-」が必要になります。

※ この pH 処理剤は、ろ過機稼働中にフィルターバスケットの中に入れてください。もしくは、水に溶かしたものをプール周りから散布することも可能です。早急に pH 値を変えたいときなどには有効な手段です。

< pH+ >



< pH- >



注意

**pH 処理剤は水に溶かすと発熱しますので取り扱いには十分注意してください。
また塩素剤の場合はこの方法を取ってはいけません。**

いかなる場合でも、一度に投入できる上限は 1.5kg です。
この量を超えないようにしてください。必要量が 1.5kg を超える場合は、数時間空け、複数回に分けて投入してください。

pH 値があまりに低いと金属の腐食、ライナーの特性を損なう色落ちやしわなどの原因となります。

▶ 塩素剤を使用した水の消毒

安全かつ快適に泳ぐことができる塩素濃度は 1.0 ～ 1.5ppm です。

(塩素濃度の測定方法は pH 値の測定方法と同様です (P5 参照))

デジョユでは下記の 2 種類の塩素を用意しています。

＜スロー塩素＞



プールの塩素濃度を維持するために使う薬剤です。

1 錠 200g。

pH 値やフィルター目詰まりには影響ありません。

使用量は、基本量 40 m³あたり 200g です。

次ページの「投薬換算表」を参照して、実際の測定数値により理想値を維持するよう適宜調整してください。

＜ショック塩素＞



プールに水をためたとき、または塩素濃度を急激に上げる場合に使用します。

1 錠 20g。

塩素レベルが理想値を下回っているときや、プールの水が緑になった、「藻」が生えた、という場合に投入してください。

こまめに濃度をコントロールしたい場合は、ショック塩素での管理も可能です。

ショック塩素を通常のメンテナンスに使用する場合の使用量については、デジョユジャパンへお問い合わせください。

※ 薬剤はフィルターバスケットに入れて使用してください。

直接プールに投入してはいけません。ライナーを傷めます。

※ 暴風や長雨、熱波や高頻度のプール使用なども塩素濃度に影響を与えます。このようなときは頻繁に塩素濃度を測定し、必要な処置を行ってください。

※ 塩素濃度が高すぎるとライナーの特性を損なうだけでなく、材質の早期劣化の原因となります。

※ 水をきれいに保つために週に 1 度は pH 値と塩素濃度をチェックし、最適なプール環境を維持するよう心掛けてください。

※ 水質悪化によりショック塩素を大量に投入した時は、昇温機の使用を控えてください。水質が改善し塩素濃度が適正になったことを確認してから、ご使用ください。



フィルターバスケット

<投薬換算表（1回の投薬目安）>

処理する水の量	スロー塩素 （通常時）	ショック塩素 （水質悪化時）
20 m ³	1 錠（200g）	20 錠（400g）
30 m ³	1 錠（200g）	30 錠（600g）
40 m ³	1 錠（200g）	40 錠（800g）
50 m ³	1 錠（200g）	50 錠（1.0kg）
60 m ³	1 錠（200g）	60 錠（1.2kg）
80 m ³	2 錠（400g）	80 錠（1.6kg）
100 m ³	2 錠（400g）	100 錠（2.0kg）

- ※ ショック塩素を通常のメンテナンスに使用する場合は、50 m³当たり 10 個（200g）を 2～3 日おきに投入してください。
- 投入後 2～3 時間は、ろ過機を稼働し続けてください。その際にプールカバーの使用は控えてください。

▶ 水処理限界点

- ・ 水処理限界点は「水質飽和点」とも呼ばれ、処理剤が効かなくなります。その点に達することを避けるために毎年プール水量の 1/3 を新しい水に入れ替えてください。
- ・ この予防策を取らずに水質が限界点に達した場合は、プールの水すべてを新しい水に交換してください。この作業は必ずデジユ販売店の監督のもとで行ってください。



注意

どのような場合も、プールの水抜きをするときにはまず初めにブレーカーを落としてください。

III プールのメンテナンス

▶適切なメンテナンス

シーズン中（毎週）

- ・ プールネットでごみを取り除く
- ・ 水位と水面のチェック → P1
- ・ pHと塩素濃度の測定（必要に応じて処理・調整）→ P5
- ・ フィルトレーションシステムの部品の清掃 → P10・11
（フィルターバスケット、フィルターバッグ）
- ・ バキュームクリーナー／ウォールブラシによる清掃 → P12
- ・ ウォーターラインの清掃 → P11

毎月

- ・ ブレーカーのテスト → P3
- ・ ポンプ室内部の確認 → P4

毎年

- ・ 毎年1/3のプールの水を入れ替える
（ただし、アドバイスなくすべての水を排出しないこと）→ P8
- ・ プールのシーズンオフの対応 → P14
- ・ デッキや笠石などの清掃

▶各部の名称



- ① フィルターバッグ用スタンド
- ② バキュームホース
- ③ ハンドルテレスコープ
- ④ PF.I 250 / GR.I 251 用アダプタ
- ⑤ ウォールブラシ
- ⑥ H₂O 検査キット
- ⑦ スキマーバキュームアダプタ
- ⑧ ブラシヘッド
- ⑨ プールネット

※ ⑤⑧⑨は③に取り付けて使用します

▶プールの清掃

週に1度はプールの中を清掃してください。

まずは水面に浮いている枯葉や虫などをプールネットで取り除き、その後バキュームクリーナーを使用してください（P12 参照）。

▶フィルターの清掃



注意

清掃作業を始める前に必ずフィルトレーションシステムの電源を切ってください。

大きなごみは「フィルターバスケット」に溜まり、小さなごみは「フィルターバッグ」に集められます。

フィルター内部



PF.I 181

中のバスケット



PF.I 250



GR.I シリーズ



＜フィルターバスケットの洗浄＞

1. フィルターバスケットを取り外します。
2. フィルターバスケットを外した後、中のごみを捨て、ホースで放水洗浄します。

＜フィルターバッグの洗浄＞

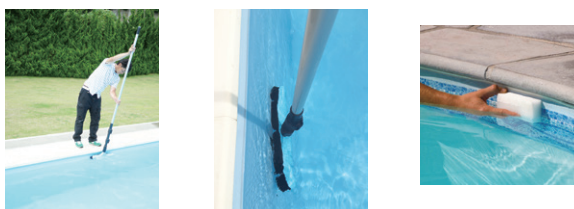


1. フィルターバスケットを外し、フィルターバッグを取り出します。
フィルターバッグを裏返し、フィルターバッグスタンドにセットします。
 2. ごみや汚れが完全に落ちるまでしっかりとホースで放水洗浄します（高水圧）。
 3. 汚れが落ちないときは 30℃程度のぬるま湯を入れた洗濯機ですすいでください。
フィルターバッグは頻繁に洗ったほうが長持ちします。
また交換の目安は 2 ～ 3 年です。
- ・フィルターバッグは、フィルターの透過サイズによって 30 ミクロン、15 ミクロン、6 ミクロンの 3 種類があります。
設置直後や水質が悪いときには 30 ミクロン（オプション品）、通常使用のときには 15 ミクロン、使用の少ないときや特に水をきれいにしたいときは 6 ミクロンなど、状況に応じて使い分けてください。
 - ・フィルターバッグにごみや汚れが溜まると徐々に目が詰まってフィルターシステムの効率が落ちてきます。
早めに洗浄して機能を保つようにしてください。

▶ 壁とウォーターラインの清掃

プール壁面のぬめりや汚れは、ハンドルを取り付けたウォールブラシで清掃してください。

その際ウォーターラインも併せてきれいにします。ウォーターラインの汚れは、必要に応じてスポンジを使って洗い流してください。



※クリーナーの清掃能力はポンプの出力によって異なります。

▶バキュームクリーナーの使い方

プールの底に溜まったごみを吸い取るにはバキュームクリーナーを使用します。
ろ過機の電源を入れてください。

1. ブラシヘッドをハンドルテレスコープに取り付けます。

バキュームホースをブラシヘッドに差し込み、
ブラシを水中に沈めてください。



2. ディスチャージ・ノズル（P1 参照）を使って
バキュームホースに水を充填してください。
（ホース内にエアーが入ると吸い込みません。）



3. スキマーバキュームアダプタを透明なアダプタが
上になるように重ね、ろ過機にセットします。
※ PF.I 250、GR.I 251 の場合は、フィルター
バスケットの片方を専用アダプタ（④）で
ふさいでください。



4. ブラシヘッドをプール底面ににつけ、滑らせるよう
に動かしてごみを吸い取ってください。

※バキュームホース内にエアーが入らないよう、
清掃中はブラシヘッドを水面より上に出さな
いください。



5. 吸い取ったごみはフィルターバスケットに溜まっています。
底面の清掃が終わったら取り付けた逆順にブラシやホースを片付け、
ろ過機の電源を切り、再度フィルターの清掃を行ってください。（P10）

IV 台風など大雨が予想される場合

台風など大雨が予想される場合には、ろ過機の運転を止めてください。
再稼働の前には必ずろ過機ポンプ室を開け、内部に水が入っていないか確認してください。 → P4

V 水が濁ってしまった場合

▶ 緑色水（グリーンウォーター）

ほとんどが「藻」の発生によるものです。

原因	改善策
・ pHバランスの乱れ ・ ろ過処理時間が短すぎる ・ 薬剤の不足 ・ フィルターの汚れ	・ pH値を調整し、水を酸性にする ・ プール内側にブラシをかけて藻を取り除く ・ ショック塩素を投入して（20g/1㎡）ろ過処理を行い、必要に応じてフィルターバッグを1日1～2回洗って取り換える ・ フィルターシステムの運転時間を長くする

▶ 白色水（ホワイトウォーター）

塩素剤による殺藻の結果と思われます。
酸化された藻類は白色化し、水が乳白色に濁ります。

原因	改善策
・ pHバランスの乱れ ・ 塩素剤による殺藻 (グリーンウォーターに対処した際起こります)	・ pH値の調整 ・ フィルターバッグの清掃 ・ 連続ろ過

ショック塩素はろ過機稼働中（マニュアルモード）に使用し、投入後2～3時間は運転を止めないでください。

また、投入後しばらくはバブルカーや昇温機の使用は控えてください。

<投薬換算表（1回の投薬目安）>

処理する水の量	ショック塩素 (水質悪化時)
20 m ³	20 錠 (400g)
30 m ³	30 錠 (600g)
40 m ³	40 錠 (800g)
50 m ³	50 錠 (1.0kg)
60 m ³	60 錠 (1.2kg)
80 m ³	80 錠 (1.6kg)
100 m ³	100 錠 (2.0kg)

VI プールを長期間使用しない場合

▶しばらく不在にする場合は、必ず下記を確認してください

- ・電源の確認（時計を再設定してください）。
- ・ろ過機が適正に稼働するようセットしてください（P2 推奨稼働時間参照）。
- ・フィルターをきれいな状態にしておいてください。
- ・pH 値の確認
- ・塩素レベルの確認
- ・フィルターバッグの代わりにマスターフィルタレーション / マキシフィルター（オプション品）を使用すると1ヶ月間程度はフィルターの清掃が不要となります。
- ・清掃の仕方は、ホームページのメンテナンス方法の動画をご参考ください。



マスターフィルタレーション
(15 ミクロン)



マキシフィルター
(20 ミクロン)

▶シーズンオフ（冬季期間）の対応

フィルタレーションシステムを定期的に稼働させ、水質を確認するなど、通常のメンテナンスを怠らないよう管理してください。

凍結のリスクがある場合は販売店へご連絡ください。

販売店へご連絡いただければいつでも必要な情報やアドバイスをいたしますのでお気軽にお問い合わせください。

少なくとも 3 年に 1 度は販売店にプールの定期点検をご依頼ください。
(点検については有料サービスとなります)

デジョユ ジャパン

検索



株式会社 デジョユ ジャパン

〒 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 19-8 八重洲 KH ビル 1 階

TEL : 03-6231-0193 FAX : 03-6231-0192

MAIL : pool@desjoyaux-japan.com

<https://www.desjoyaux-japan.com>

